

平成26年 4月16日  
北海道開発局

## 北海道初！「国内最大級の分解組立型バックホウ」を導入

北海道開発局では、迅速で確実な災害対策を実施するため、一度に1立方メートルの土砂を積み込める国内最大級の分解組立型バックホウ1台を北海道ではじめて導入し、札幌開発建設部に配備しました。

### 1. 導入の経緯

この分解組立型バックホウは、平成16年度に発生した新潟県中越地震や平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震で問題となった「天然ダム」対策のため、国土交通省が開発に着手し、平成22年度に中部地方整備局に2台導入した後、全国配備を進めていたものです。

### 2. 特徴

#### ①ヘリコプターでの空輸が可能

災害等で陸路が寸断された現場においても、分解してヘリコプターによる輸送ができるため、復旧作業の効率が大幅に向上。

#### ②遠隔操作が可能

運転操作者を二次災害の危険から守るため、ラジコンによる遠隔操作が可能。

### 3. 機械の諸元

- ・バケット容量：1.0m<sup>3</sup>
- ・全長：10.124m
- ・全幅：2.990m
- ・全高：3.280m
- ・重量：25,998kg
- ・遠隔操作距離：約150m



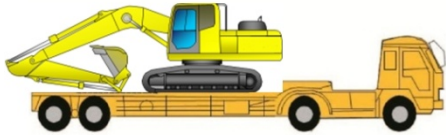
分解組立型バックホウ

### 4. 報道公開

4月18日（金）午前10時から災害対策用機械格納庫（札幌市豊平区月寒東2条8丁目）において報道公開を行います。

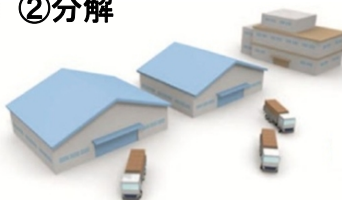
# 分解組立型バックホウの分解・組立手順

## ①出庫



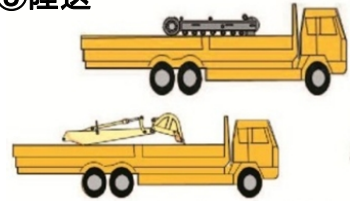
保管場所より出庫

## ②分解



整備工場での分解  
(13パーツに分解)

## ③陸送



各パーツを災害現場近くのヘリポートまで陸送

## ④空輸



ヘリコプターによる各パーツの空輸

## ⑤現地組立

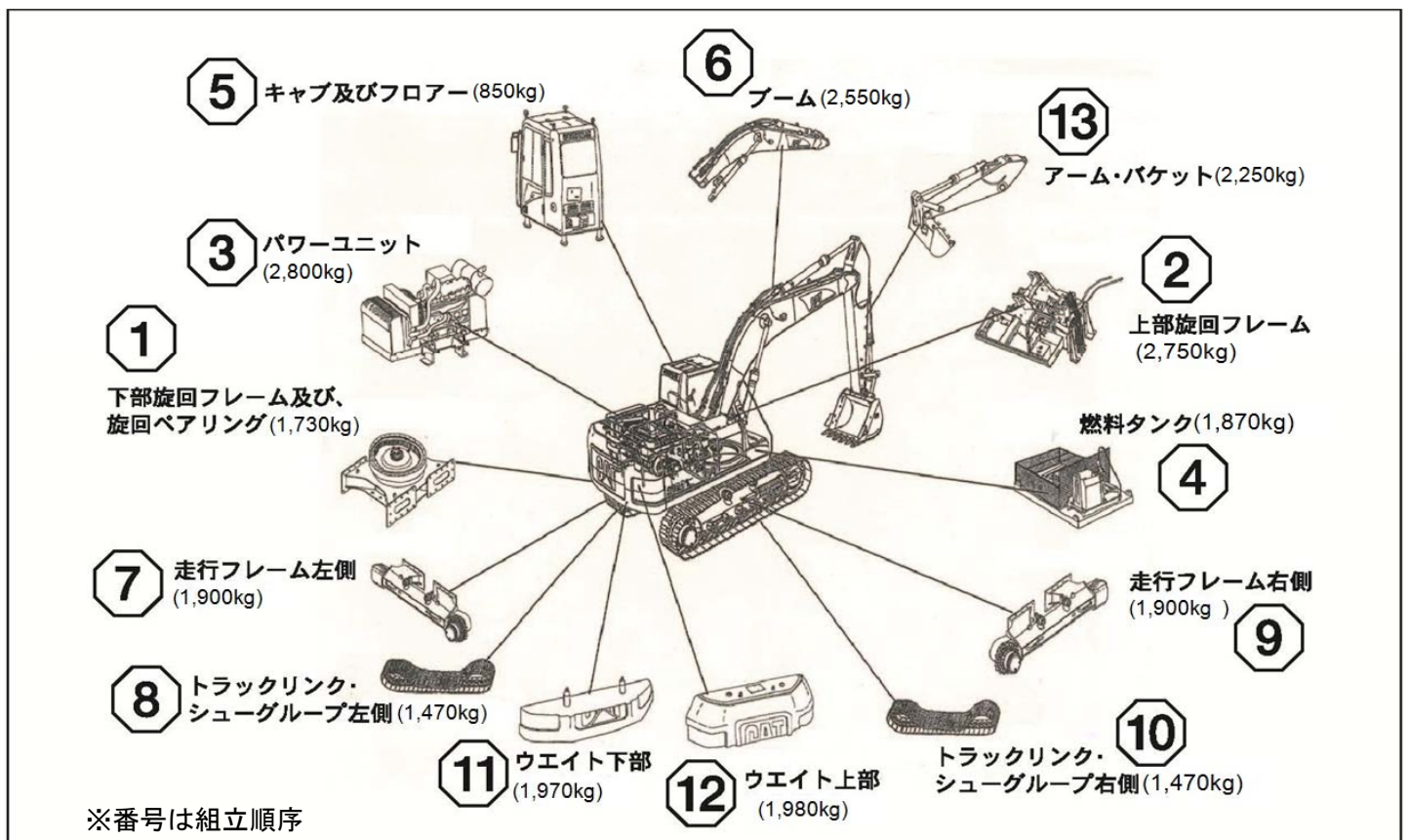


災害現場にて各パーツを組立

## ⑥災害現場での運用



遠隔操作により安全施工



## ラジコンでバックホウを操作

150m離れた場所から操作可能。

2次災害の恐れがある現場・急傾斜地において、ラジコン操作により、安全な場所から災害復旧が行えます。

カメラ



モニター映像を見ながらリモコン操作